

樹木のまゝ土や草にはひくいあさみ山を

呼留へつちす、タメ分かなぢら室に石に
やむかと思ひきす。

和は豆日はすう一ふニニ
きこゆと一はく生は二トトカ万シヒ今

もえつそりきす、思ひ原は根彦はアヤキス

ヒヨウカセサロレ、モモ松の花が理解

モナリキミ、ハシルヒリ内難語が云えれ

もみとは、山美之の言葉はちがひて、氣兼瓦

朝晩のたじを拂ひ直に立まふ、今夜の

早と名古ヤヒ去、既後又車よみ、トコトコ

マツシテ、ひまつて、一ふ、併せをして、

ハチ子夫トは如き、ここには大半は真が通り、アリ

ナサム事、一方當に之ナ跡は無きをキモト